

結核の予防接種について(BCG)

BCGワクチンは、結核を予防するワクチンです。

結核について

結核菌の感染で起こります。感染者のすべてが発病するわけではなく、感染してから長期間潜んでいた結核菌が、免疫力が衰えたときに活性化して発病することがあります。国内の結核患者はかなり減少しましたが、毎年約2万人の患者が発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。乳幼児は結核に対する免疫が弱く、母親を通じての免疫もないので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

BCG ワクチンについて

BCGは牛型結核菌を弱毒化した生ワクチンで、管針で上腕2か所にスタンプ式に接種します。針あとから少し血がにじむこともありますが、接種後はもんだり、出血を拭いたりせず、ワクチンが衣服・髪などにつかないように注意して、日陰で十分乾燥させてください。この接種により、結核の発病を接種しなかった場合の4分の1くらいに抑え、結核性髄膜炎や粟粒結核など、小児の重篤な結核の発病を防ぐ効果が確認されています。

副反応

BCG接種後10日くらい経つと、接種した箇所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後、4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により免疫がついた証拠の反応なので、絆創膏や包帯はしないで清潔に保ってください。自然に治ります。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは、医師に御相談ください。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。ただれたり、大変大きく腫れたり、化膿してうみがでる場合なども、医師に御相談ください。

また、重大な副反応としては、まれにショック、アナフィラキシー、BCG感染症(全身播種性BCG感染症、髄膜炎、骨炎、骨髄炎、骨膜炎)、皮膚結核様病変(狼瘡、腺病性苔癬など)が報告されています。

コッホ現象について

結核に感染している人が、BCG接種を受けた場合、接種後10日以内に、接種局所の発赤・膨脹及び針痕部位の化膿などの症状が現れ、通常2週間から4週間後に消炎、癒痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあり、これをコッホ現象といいます。コッホ現象と思われる反応が見られた場合は、速やかに接種医療機関で、医師の診察を受けてください。

対象者及び接種スケジュールについて

接種対象者

1歳未満

(標準的な接種期間)

生後5か月から7か月

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。
※結核にかかったことがある人は接種できません。

接種時に持参するもの

- ① BCG 接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)